

能登有料道路災害復旧の実務



石川県土木部都市計画課

為重 誠

1) 災害の直後

- 被害状況の把握

系統だった被害状況の把握
(被害総額の把握)

- 被災者の救出方法

取り残されたバス等の救出

- 2次災害の予見

同規模の地震が来たらどうするか

2) 災害の直後に発生するのは

■情報のループ

本庁と出先との情報混乱

発生源の同じ情報が尾ひれを付けてループ

EX)被災箇所数の調査

①担当調べで被災箇所〇〇箇所差・被災額△△億円

②本庁中間管理職が現場所長に電話で最新情報の確認

①と②の情報の差異で確認のための電話

この間時間が経過し

新たに③の最新情報の発生で再度の確認作業の発生

トップが「どうなっているんだ。情報管理は・・・」

3) 災害復旧に当たって

①情報のコントロール

情報のストップ役が絶対必要

→→能登半島沖地震(H5)の経験
(情報のループ防止のための一元管理)

■情報管理の組織化

渉外班 と 復旧班 と マスコミ班
(課長補佐級が適任かな?)

3) 災害復旧に当たって

■ 組織図

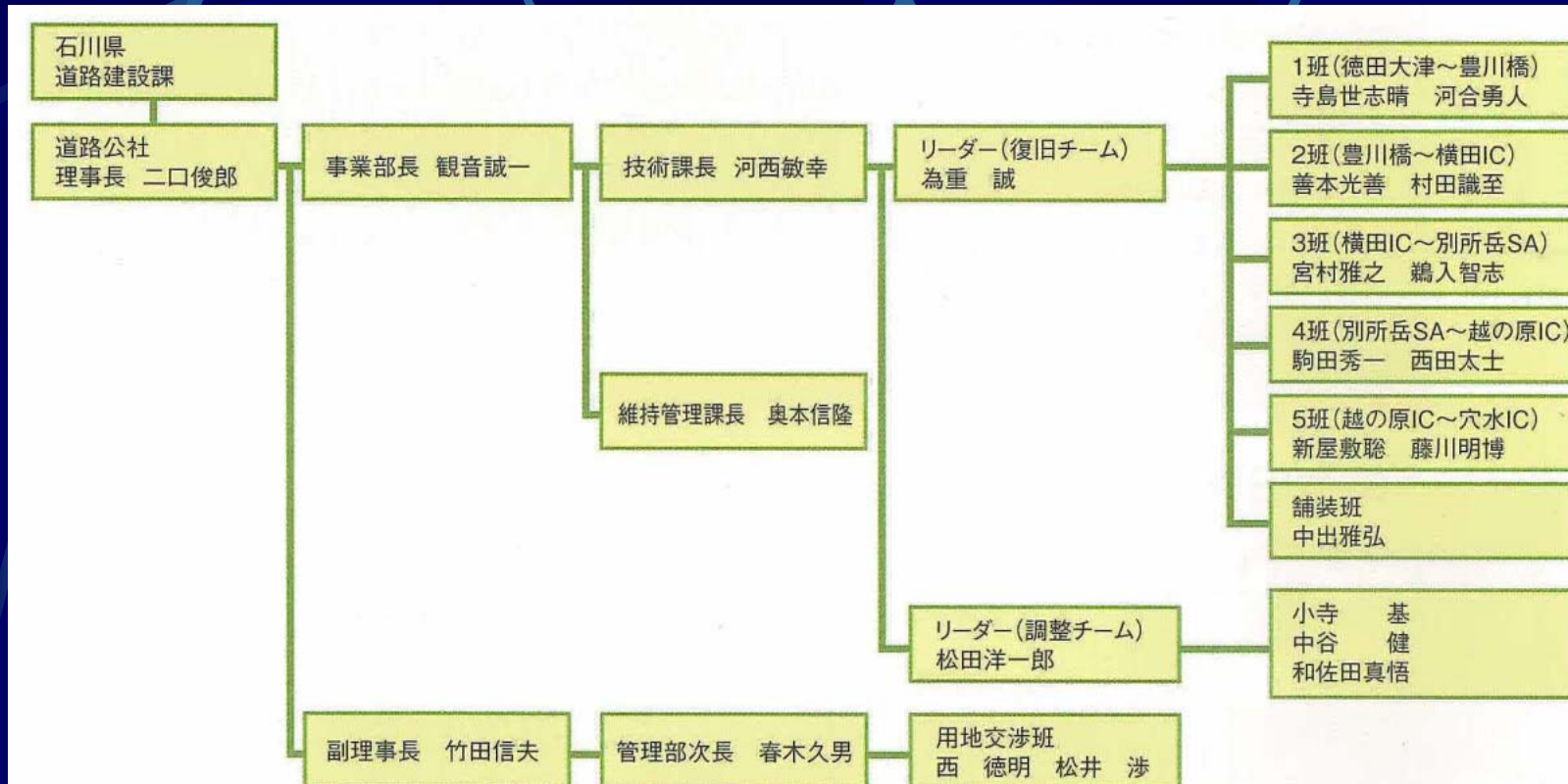


図 4-1 応急復旧チーム編成

3) 災害復旧に当たって

②目標（応急復旧日）の設定

4月27日（GW前日）に交通開放

→中越地震は長島村長の2年後に戻る

現実には、3日目（28日）の夕方時で復旧方針は何にも決まっていない。

7日目（4月2日）には、

→大規模崩壊11箇所のうち

3箇所は片側交互通行となる

4) 災害復旧の初期

■ 復旧方針の決定

3日間で被害額算定し、4日目で本省協議



復旧費用は、本省が全面バックアップする。



仮復旧でも料金徴収する。



(方針) 全線2車線、設計速度40kmで復旧

4) 災害復旧の初期

■ 復旧方針の決定後

5日目(30日)の夕方に、県の方針の全体説明会

(県職員、コンサル、業者、測量調査会社)

- ① 県担当は2人ペア(中堅と若手)
- ② すべての打ち合わせは現場で行う。
- ③ 各部門の責任会社が部門別の意見を取りまとめる。
- ④ 復旧方針等は随時紙ベースで連絡する。

4) 災害復旧の初期

■ 復旧方針の決定後

大まかな全体工程の提示

1 週目 資材運搬路の確保。設計方針の確定

2 週目 資材確保と迂回路の工事開始

3 週目 舗装復旧の工事開始

4 週目 復旧の仕上げ

5) 災害復旧の開始

■ 復旧資材の確保

- ・ 碎石の確保(3万立米)
急速施工のため



②補強盛土工に使用する碎石の本線仮置き状況（一次施工）

5) 災害復旧の開始

■ 復旧資材の確保

- ・コンクリート擁壁の確保（県内の全数）



5) 災害復旧の開始

■ 復旧資材の確保

- ・ 大型どこのう(1万個)や松杭(3千本)の製造



5) 災害復旧の開始

■ 復旧資材の確保

- ・ 土壌改良剤(石灰安定処理材)
奥能登特有の珪藻泥岩



5) 災害復旧の開始

- 復旧資材の確保
 - ・ 照明車
- 国交省から8台



5) 災害復旧の開始

■ 資材搬入路の確保



6) その他の災害復旧

■ 舗装の復旧



6) その他の災害復旧

■水抜きボーリング



写真 7-4. 水抜きボーリング工による排水状況

7)そして

応急復旧工事の費用

・ 調査設計関係	約 2 億円
・ 土工関係	約 6 億円
・ 舗装関係	約 9 億円
・ グラウト関係	約 2 億円
・ 水抜きボーリング	約 1 億円
・ 安全施設関係	約 1 億円
合計	約 2 1 億円

作成設計書本数

約 2 4 0 本

8) 仮復旧の供用開始

3月29日15:00～

- ・能登有料道路：柳田 I C～徳田大津 I C
- ・田鶴浜道路

4月20日15:00～

- ・能登有料道路：徳田大津 I C～横田 I C

4月27日10:00～

- ・能登有料道路：横田 I C～穴水 I C

・復旧工法

本線応急復旧	3箇所
迂回路(W=6.5(8.0)m、V=40km/h)	8箇所
路面段差・クラック補修	37箇所

